

# 短大におけるグローバルマインド育成

## — アンバサダープログラムの試み —

### How to Develop GC Students' Global-Mind Set?

- NJC Student Ambassador Program -

牟田 美信

#### 1. はじめに

地方の短期大学において学生のグローバルマインドを如何に育てるかを目標に、牟田（2003,2004,2005,2006, 2014）で述べているように、英語科・国際コミュニケーション学科ではこれまで様々な取り組みを行ってきた。

前回の紀要では、「国際コミュニケーション学科でのグローバル人材養成教育の試み～地方短大でのグローバル人材養成を考える」というテーマで、これまで取り組んできた「留学生と共に学ぶ通常のカリキュラム」、「課外国際交流活動」、「国内外インターンシップ」、「多様な海外留学」などの試みについて述べた。

具体的な目標として、以下の2点を重視した。

- ①国際コミュニケーション学科で、「留学生」と日本人が共に学ぶことにより、「コミュニケーション能力・言語（英、中、韓、その他）運用能力」と「異文化理解・対応能力」を高めることができる。
- ②短大での学びをベースに、例えば自分たちが暮らす地域で、「卒業生」が「外国人労働者（労働力不足で、これから増えるだろうと予想される）」が協力して働くことができ、「外国人顧客」や「（外国の言語や文化に不慣れな）日本人顧客」にスムーズに対応ができる、地域を支える人材になる。

今回、これらの目標をさらに深く達成できるように、学内で「学生アンバサダー（大使）プログラム」という取り組みを行った。これは、本学学生が本学の代表（学生アンバサダー）として様々な行事やプログラムの企画運営に関わり、英語、韓国語、中国語の語学を活用しながら、活躍し、その過程でグローバルマインドを育んでもらおうという取り組みである。

#### 2. グローバルな人材を育てる

グローバルな人材とはどのような人を指すのかを考える場合、ただ単に上手に英語を話せる人材というだけではなく、「企業・大学はグローバル人材をどう育てるか」（本名信行他編）で述べられているが「グローバルな活動において、英語が国際協働言語として大切であることはもちろんだが、いわゆる英語力が高ければコミュニケーション力が高いというわけではない。グローバルに活躍する人材には多様な交流相手の多様な文化を理解する能力が重要である。日本人のコミュニケーションの特徴の一つ「察し」の文化を再考し、国際協働コミュニケーションで活躍できる、グローバル人材の養成を考える必要がある」という観点が重要になる。

日本の中でも、社会が変化し、世代が異なれば、「察し」の意味合いも変わりつつあることがわかった。ただ単に、国や言語が異なるだけでなく、世代の違いによってもコミュニケーションの取り方も変わる可能性がある。

これからの学生は、このような多様性の高い社会の中で、いかに上手にコミュニケーションをとることができるかグローバルな感覚を身につけることができるかがますます重要になるものと思われる。

#### 3. 国内での学生アンバサダープログラム

グローバルマインドを身につける試みとして、国内で実施する活動やイベントで、学生アンバサダーに活躍してもらった事例を紹介する。

### 3.1 「釜山観光高校高校生の支援」

平成26年度、韓国釜山の釜山観光高校と九州文化学園は姉妹校締結を行った。交流の一つとして、韓国人高校生12名を3ヶ月間本学に受け入れ、日本語・日本文化教育、ホテルインターンシップを含むキャリア教育を行なった。

その際、韓国への留学経験者、韓国語を学んでいる日本人学生を中心として、韓国人高校生の歓迎会企画や運営、フィールドトリップ引率、日本語指導ヘルプ、などに積極的に関わってもらった。

参加に関しては、強制するものではなく、学生アンバサダープログラムの趣旨を伝え、賛同した学生のみが、進んで参加した。従って、学生自らが積極的に短大の代表としてリーダーシップを発揮し、学生アンバサダーとして活躍した。

学習している韓国語の勉強のみならず、韓国人学生を通して異文化の理解ができたのではないかと思う。

### 3.2 「アメリカ人ゲストへの茶道披露と接待」、「アメリカンスクール学生への茶道披露と接待」、「アメリカ人大学生（JLCP）に対する茶道指導」「海外からのゲストに対する茶道披露」

佐世保市には、米海軍基地が置かれており、軍人とその家族を含めて6000人あまりのアメリカ人が生活している。このような環境の中で、毎年、日本を代表する文化の一つである「茶道」に興味ある成人や学生を招待して、本学学生が茶道の披露及び接待、茶道指導を英語で行う。

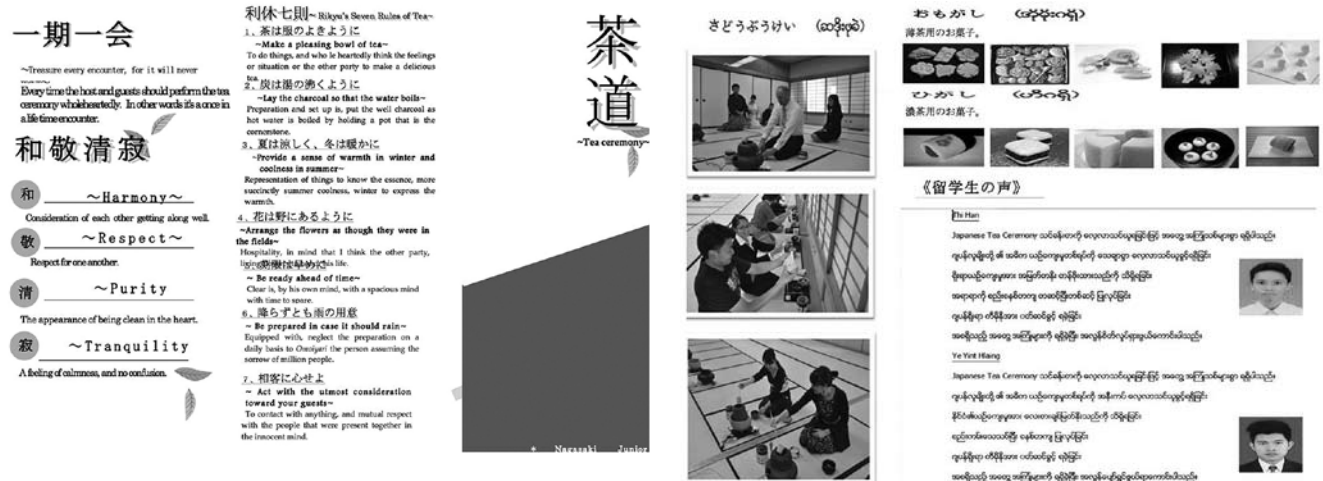
日頃、授業の一つとして学んでいる茶道文化を日本人の代表として外国人に英語で伝えることにより、自国の文化を再認識し、異文化間でのコミュニケーションを高めることができている。

これらのイベントでは、本学学生が司会、着物を着て茶道披露、英語での茶道のグループ別説明など、学生が中心になり、自分達が学んでいる日本文化の一つである茶道をアメリカ人ゲストや海外からのゲストに、自ら積極的に取り組んでいる。これらは、グローバルな感覚を身につける上で、大きな学びの機会であり、場でもある。



### 3.3 「茶道大会時の外国人ゲストの対応」、「3カ国歓迎交流パーティー企画運営」、「各国言語での茶道紹介リーフ作成」

毎年12月に実施された本学茶道大会には、韓国、台湾、中国より多くの学生ならびに教員が参加する。その際、それぞれの言語を学習している日本人学生が佐世保観光案内や茶道のヘルプを行なった。また、最終日に開催する「3カ国歓迎交流パーティー」の企画運営を学生が中心に行なった。また、授業で6カ国対応の茶道紹介のパンフレットも作成した。



これらのイベントへも積極的に学生が参加することにより、語学を磨き、異文化対応能力を高めることができたと思う。これは、多くの学生が楽しみながらイベントに関わり、その結果として多くの外国人の友人を作ることができたことも大きな成果となった。

また、日本を代表する文化の一つである茶道文化を留学生と日本人が協力しまとめ、各言語でのパンフレット作成は、自分たちが作成したものが印刷され、実際に外部の人たちに読まれたという喜びと自信が、今後の学習につながるものと考ええる。

#### 4. 海外でのアンバサダープログラム

次に、グローバルマインドを獲得する試みとして、海外で実施する活動やイベントで、学生アンバサダーに活躍してもらった事例を紹介する。

##### 4.1 釜山女子大学にて茶道披露

毎年12月に、本学茶道大会に釜山女子大学から韓国の茶道披露のために来佐されるが、その直前の10月に釜山女子大学を本学学生が訪問し、日本の茶道文化の紹介を行う。

韓国語でのスピーチから、茶道披露まで、韓国人学生と共に協力して、イベントに参加する。又、韓国人学生と教員の前で、日本人学生が日本や本学に関するプレゼンテーションも行なった。

プレゼンテーションやスピーチは、渡航前に日本で準備を行なった。



学生は様々な感想を抱いたが、以下に学生の感想の一部を抜粋する。

(学生レポート一部抜粋)

「2日目に、釜山女子大学の茶道大会のオープニングセレモニーとして、学生や審査員の先生方のお点前をさせていただきました。私にとって最も緊張した場で、普段とは違う道具や会場に戸惑いもあり、上手くいかなかったこともありました。しかし、終わったあとに会った学生から「日本の茶道すごいね!」と言われたことがとても嬉しく、印象に残っています。研修の中で韓国の茶道に触れることはできなかったもので、12月の茶道大会で韓国のお点前を見られることを楽しみにしています。」

##### 4.2 ソウルの高校でのプレゼンテーション

本学学園との姉妹校の一つである韓国ソウルのトンイル高校にて、学生による学校紹介と両国の学生間での文化交流会を実施した。ここでも、学生が日本で事前にプレゼンテーション準備を行い、本番でも、堂々と韓国語でプレゼンテーションをすることができた。外国の環境で、異文化の人たちに囲まれた環境でプレゼンテーションを行うことができ、みな自信をつけたようである。

(学生レポート一部抜粋)

「東一高校の高校生のパフォーマンスは全部クオリティが高く、とても素晴らしいものでした。校内案内は、最初ぎこちなかったが、だんだんと打ち解けていき、かわいい子たちばかりでとても楽しかった。高校訪問が終わってからは、ホームステイ先のソヒョンと、お友達のジスト、プリクラを撮ったり、パッピンスを食べに行っ

たりしました。。。。日本語の授業に参加させていただきました。日本語の例文を読んだり、生徒たちからの質問を受けたりしました。私が昨日誕生日だったことを覚えてくれた子たちもたくさんいて、おめでとうと言ってくれたり、クラッカーを鳴らしてパースデーソングを歌ってくれた子たちもいました。皆優しくとても楽しかったです。韓国の先生と生徒の雰囲気は友達のような感じで、校長先生もとてもユニークな方で、授業の様子もとても楽しそうでした。韓国の高校で日本語の授業に参加するなど、貴重な体験ができたので、とても充実した1日になりました。お友達もたくさんできました。」

#### 4.3 カナダの大学／高校でのプレゼンテーション

カナダへは、ビクトリア大学への3ヶ月留学と同時に、10日間程度の短期海外研修を実施している。特に今回は、学生アンバサダーを念頭に、カナダの大学、小学校を訪問して日本語や日本文化の紹介、及び長崎短期大学の紹介プレゼンテーションも英語で実施した。

以下の学生のレポートからもわかるように、このケースにおいても、学生が主体となり積極的に参加した（学生アンバサダー）活動は、非常に高い教育効果があったものと考えられる。



（学生レポート一部抜粋1）※ Uvic（ビクトリア大学）

「Uvic で日本語を学んでいる学生との交流は、とても貴重な体験でした。学生の日本語は想像していた以上に上手で、また韓国語も学んでいる学生もあり、その語学力の高さに本当に驚きました。そして、自分ももっと英語や韓国語を真剣に学ばないといけないと感じました。日本語教育に興味があったので、その授業を少しだけ見ることができたのも良い経験でした。…カナダの小学校にも訪れました。その学校は、日本の小学校とは全く違って、アウトドア活動も多く取り入れた学校で、楽しそうでした。子供たちにカタカナを教え、習字で子供たちの名前を書く練習もしました。そのあと山へハイキングに行ったり、海に行ったりしました。」

（学生レポート一部抜粋2）

「小学校を訪れ、子供たちにひらがな、カタカナ、漢字を使つての習字を教えました。子供たちはとても興味深そうにし、名前をカタカナで書く際には、日本語で書いた自分の名前を嬉しそうに練習していました。教えるといっても言葉の壁は高く、苦戦し自分の英語力のなさを痛感するときもありましたが、ちゃんと伝えたいという意思を持って話すようにしていました。さらにそのあとは一緒にハイキングやビーチにも出かけました。」

（学生レポート一部抜粋3）

「UVIC では日本語のクラスと日本文化のクラスを訪問して、長崎短期大学の紹介と自己紹介をしました。皆



さん日本語を勉強されて2～3年とおっしゃっていましたがとても流暢に話されていて、私ももっと英語の勉強を頑張らなくては、と良い刺激になりました。学生の皆さんにお土産で持って行った抹茶味のキットカットも喜んでもらえて良かったです。。。バーノン3日目はルーク先生のご友人が経営されている小学校を訪問し、子供たちと交流しました。普通の学校とは少し違いアウトドアスポーツや自然と多く触れ合う少人数制の学校で、子供たちがのびのびと遊んでいる姿が印象的でした。みんなで習字をしてみたり、ハイキングをして鹿を見たり、ビーチで遊んだり、楽しい時間を過ごしました。全員にそれぞれの名前（カタカナ）とメッセージ入りの色紙をプレゼントしましたが、子供たちからも私たちにプレゼントを用意してくれていたのと、一人の男の子が「今日が人生で一番いい日！」と言ってくれたのが本当に嬉しかったです。」

#### 4.4 中国でのプレゼンテーション

中国の姉妹大学を訪問して、日本語や日本文化の紹介、及び長崎短期大学の紹介もおこなった。ここでも、大勢の中国人学生や教員の中で、本当の中国を肌で感じる事ができたようである。



##### （学生レポート一部抜粋1）

「私は沖縄についてのプレゼンテーションをしました。二回に分けてしたのですが一回目は緊張と初めてのプレゼンテーションで失敗したなと思いました。二回目はその反省点を生かしわかりやすく楽しくしたのですがもっとスライドに文字を入れてつくれば良かったなと思いました。沖縄の方言も教えたのですが、みんなすぐに覚えて使ってくれたのでとても嬉しかったです。これからプレゼンテーションをする機会がもっと増えると思うのでとても良い経験になりました。」

##### （学生レポート一部抜粋2）

「日本語学科の3年生の教室で沖縄と長崎についてのプレゼンテーションをしました。プレゼンテーションをやってみて、もっとゆっくり簡単な日本語を使えばよかったなと思いました。午後は3年生の翻訳の授業に参加してもらいました。日本人にはわからない間違い方をしている時の解説や、日本語を論理的にわかりやすく説明することがとても難しいなと感じました。」

#### 4.5 JLCP（Japanese Language and Culture Program）の卒業生による長崎短期大学の紹介

現在、英語を母国語とする学生、アメリカのウイスコンシン州立大学の学生を対象に4ヶ月単位で「日本語・日本文化・英語教授法」のクラスを長崎短期大学に開設し、教育を行っている。



今回は、このプログラム終了後、母国に帰国した卒業生に、アメリカに開催される留学フェアに参加してもらい、長崎短期大学の学生アンバサダーとして、本学のプログラムを紹介してもらった。本学プログラムに興味を持つアメリカ人に対して、学習した日本語や日本文化を伝えてくれた。写真は、プレゼンテーションのブースである。

## 5. 今後の課題と展開について

今回、長崎短期大学の傾斜配分研究費を活用させていただき、国内外の国際的行事等へ学生アンバサダーとしての参加や外国語でのパンフレット作成に取り組ませた。学生自ら国際的活動に積極的に関わることで、グローバルマインドを身につけることを目標とした。

学生のコメントからも感じられるが、受身的な関わりよりも積極的に、特に学校の代表として行事等に関わることで、学生の取り組みへの意識の持ち方も変わり、国際的な感覚、コミュニケーション力やリーダーシップ力を高めることができたのではないかと思う。

「学生アンバサダー」すなわち、短大の代表という立場となることで、より責任感を高めさせ、準備の段階から、緊張を持って関わることにより、より高い教育効果を得ることができたと思う。

課題としては、どのようにすることで、アンバサダーとなりえる質の高い学生の数を増やし、同時に、学生によるプレゼンテーションの技術や内容を深めて行くかである。

今後、短大を訪問される外国人ゲストへの学内案内を含めて身近なところから、学生がアンバサダーとして関われる機会を増やし、学生主体の学びを加速させて行きたいと思う。

また、語学力や社会人基礎力などの測定結果と関連づけて、学生アンバサダープログラムの具体的な評価方法も考えて行きたい。

## 参考文献

- 牟田美信 (2003) 実践的英語教育の試み (1)、長崎短期大学研究紀要、15、1-11
- 牟田美信 (2004) 実践的英語教育の試み (2)、長崎短期大学研究紀要、16、59-67
- 牟田美信 (2005) 短大2年間での英語力の変化と3ヶ月留学の効果、長崎短期大学研究紀要、17、75-85
- 牟田美信 (2006) 海外留学時のカルチャーショックと英語力、長崎短期大学研究紀要、18、75-85
- 牟田美信 (2014) 国際コミュニケーション学科でのグローバル人材養成教育の試み、長崎短期大学研究紀要、26、1-6
- 本名信行 (2012) 「企業・大学はグローバル人材をどう育てるか」アスク出版